

篠原 徹

## 【勤勉な蓑虫】

マンシヨンから小さな庭付きの家に変わって5年経った。野菜やら好きな花木を植えて楽しんでるが、庭の自然も観察するとなかなか興味深い。宗祇や芭蕉に応答して作った蕪村の「みのむしのぶらと世にふる時雨哉」という句が私は好きであるが、この句の感じからミノムシというのはあのままずっと一カ所でぶらさがっていて随分ずぼらな奴だなと思っていた。餌はどうしているのか考えたこともなかったが、夜、庭でふとみると蓑を着たままナンテンの枝を動いているではないか。ムラサキシキブにも日中ぶら下がっているのを見て、どうも同じ種らしいこともわかった。チャミノガという種らしいが、ムラサキシキブのでかかった新芽を夜毎移動して食べている。ナンテンのほうは奇数羽状複葉の比較的硬い葉をほぼ食べ終わると次の複葉に移動している。チャミノガの雌は一生蓑を着たまま過ごすらしいが、懶惰の象徴のようなミノムシが意外に貪食で、無能・無為などとは違うことがわかり、何か遊び仲間を失ったような気がしている。虫はみかけによらない。今年の5月中旬のことであった。

自然を歩く ②